

小中学校での取組事例

1 小学校の取組事例

いじめの積極的な認知から早期発見、早期対応

- ・いじめアンケート調査に「あなたは、今、いじめをうけていますか。」という質問項目を設け、「はい」と答えた児童についてはすべて「いじめを受けている(いじめの認知)」とし、対応している。

<対応フロー>

いじめを受けている児童に対して面談を実施（担任）
→学年主任→生徒指導主任→教頭→校長

- ・データサーバに報告用フォルダを作成し、いじめを受けている児童氏名、いじめの概要、指導内容について入力し、報告する。
- ・いじめ認知の報告内容は一覧にまとめ、生徒指導委員会、いじめ防止推進委員会で情報を共有し、対応している。

2 中学校の取組事例

いじめを訴える生徒が減少

- ・教科や道徳など、あらゆる教育活動で協調学習を推進している。仲間とともに学ぶ楽しさに気付き、協力していく大切さを味わえるようにしている。
→生徒の自己有用感が高まり、いじめを訴える生徒の減少につながった。
- ・教室の前方掲示物をロールカーテンで隠したり、掲示物を統一したりし、ユニバーサルデザイン化を進め、落ち着いた学習環境を整えた。また、廊下の照明をLEDに変えたり、生徒昇降口に番号付きで管理しやすい傘立てを設置したりするなど、校内環境を整えた。
→教室のユニバーサルデザイン化や校内環境を整えることで、生徒が学習に集中できる居心地の良い学校づくりを推進した。
- ・「生徒指導は生徒の成長につながるチャンス」を合言葉にし、組織的な生徒指導を行っている。これまでの生徒指導部会、教育相談部会は情報交換が主となっていたが、事前に学年で指導方針を検討し、部会で話し合いを重ねることで、生徒一人一人に適切な生徒指導を行った。
→明確な指導方針のもと、組織的な対応をすることで、生徒や保護者との信頼関係が深まった。